

平成25年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

【最 終 評 価】

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>① 何事にも主体的・積極的に取り組み、自己実現を目指しながら努力するなど、将来社会に貢献できる人間を育成する学校づくりを行う。</p> <p>② 人権尊重の立場に立って、自らを大切にし他を思いやることのできる豊かな心を持った生徒を育成する。</p> <p>③ 生徒の実態を踏まえ、自ら学ぶ学習態度を育成し学習指導の充実強化に努める。</p> <p>④ 基本的生活習慣の確立を図り、自主・自立の態度を備えた生徒を育成する。</p> <p>⑤ 進路指導を適切に行い、個々の進路目標を達成させる。</p>	<p>① 学力向上フロンティア校支援事業における取組を推進することができた。</p> <p>② 学習の基礎・基本を徹底させて学力の向上を目指す「学びの原点」を活用することができた。</p> <p>③ 「サイエンスリサーチシリーズ」・「ヒューマンリサーチシリーズ」を継続実施する等、高大連携の充実を図ることができた。また、大学や地域から社会人講師を招いたり、施設見学するなど、キャリア教育に関する行事も充実できた。</p> <p>④ 交通安全指導では、交通安全週間に、PTAの役員の方々にも協力していただいた他、地域から様々な情報をいただき、危険箇所については教員とともに山科警察署員の方にも指導していただいた。 また、醍醐十校区自治連合会交通安全推進委員の方々にも協力していただいて、交通安全キャンペーンを実施できた。</p> <p>⑤ 学校説明会、ホームページ、「東稜だより」や「東稜写真館」の定期的発行等を通じて、情報発信を積極的に行い、中学校や地域社会から本校に対する理解を得られた。</p> <p>⑥ 部活動加入率は目標をやや下回ったが、全国大会や近畿大会への出場、または吹奏楽部コンクール金賞受賞などの成果があった。部活動加入率を高め、より多くの部で一層の活躍を期待したい。</p> <p>⑦ 授業公開（授業参観）、研究授業を活用して、授業力の一層の向上を図り、生徒の家庭学習時間の増加や学習力向上を目指したい。</p>	<p>① 「真の自己実現にTRY」をスローガンに「人間力」と「質の高い学力」を育むキャリア教育を推進を継続し、地域と共に育つ学校、確かな進路の実現を目標に特色ある教育活動を実施し、生徒が「伸びる」・生徒を「伸ばす」学校を目指す。</p> <p>② 規律ある集団を育成するための指導を徹底し、安心安全で落ち着いた学習環境を維持し、最後までやり切る・やり切らせる指導を推進する。また、新入生オリエンテーション等を改善し、身だしなみやあいさつを大切にす等社会的マナーの充実を目指す。</p> <p>③ 生徒の学びへの姿勢を向上させ、授業を大切にし主体的に学習に取り組むことで、学習時間の伸張を図り希望進路の実現を目指す。</p> <p>④ 生徒の心身の発達や健康の増進を図るため、教育相談・特別支援教育体制の充実を一層図る。</p> <p>⑤ 部活動等の特別活動の活性化を図る。</p> <p>⑥ 保護者や地域に積極的に情報を発信するとともに、「選ばれる学校」「開かれた学校」を目指し地域貢献・地域との交流を、積極的・継続的に実践し地域社会及び小・中学校との連携を一層推進する。</p> <p>⑦ 土曜学習の成果と課題をふまえ、土曜授業の充実を図り、平常の授業と課外活動のバランスと充実を目指す。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	教育活動を一致協力して推進する体制をさらに充実させる。	教職員間での挨拶の励行等を実践し、話しやすく明るい職場づくりを構築する。 各事業・行事等のリーダーと役割分担を明確にし、情報の共有化を図り、各分掌間の連携を深める。	B A	A	朝の打合せにおいて教職員が、全員起立して挨拶が交わせるように定着した。部長会議においては、本校のビジョンを推進するという視点での意見交換ができていたが、教員間の分掌を越えた繋がりを、さらに強くしていく工夫が課題である。 各事業への取り組みは、担当を中心に活性化しているが、担当が人に付いていくという課題が解消に至っておらず後進育成が急務である。 各行事や企画において、しっかりと記録が残っており、HPの充実と併せて、広報発信活動が推進できた。
	現在までの特色ある教育活動を各クラス・コースのバランスを図りながら継続させ、26年度に向けての東稜高校構想を具体化し発信する。	26年度に向けて、東稜高校の将来構想に繋げ、さらに取組を充実・発展させるために、キャリア教育推進会議やフロンティア会議、アカデミー推進会議等を積極的に活用して各種事業の継続と発展を図る。	B	B	
教育課程の編成と実施	東稜高校の将来構想に基づいた特色ある教育課程を作成し、次世代の高校制度に対応する。	類・類型制度の改革に連動して、平成25年度入学生の教育課程を検証し、26年度入学生の教育課程を作成する。	B	B	平成26年度入学生の教育課程は類・類型制度の変革にあわせて編成することができたが、一部の総合的な学習の時間の実施内容で検討が必要である。 来年度のシラバスの様式を改訂し、年間授業計画と連動させることで、実質的活用ができるように改善することができた。
	より使いやすく、実践的な「学習の手引き(シラバス)」を作成し、有効活用の促進を図る。	「学習の手引き(シラバス)」を各種オリエンテーション等に有効活用する。 「年間授業計画」の有効活用を研究する。 「学習の手引き(シラバス)」と「年間授業計画」の改訂を推進する。	B B B	B	
学習指導	授業規律を確保し、家庭学習習慣を定着させ、基礎学力の育成を図る。	始まりのチャイムから終了のチャイムまでの50分間の授業を確保すること。 学年部・進路指導部等と連携して、生徒の授業参加への良い姿勢及び学習意欲の維持・向上を図る。 各教科と連携して、基礎学力補充の計画的実施とその内容の充実を図る。	A B B	B	授業の50分の確保はほぼできているが、授業規律の確保や生徒の学習意欲向上に依然として課題が残る。 定期考査前の基礎補充は計画的に実施できたが、授業での取組と平常の補充体制の充実が課題である。 今年度の新指導要領完全実施にあわせ評価の研修会を実施した。適正な評価の在り方をさらに研修していく必要がある。 公開授業は年2回に増やしたが、多くの保護者の参加を促すことが課題であり、研究授業はより効果的な研修の在り方の検討が必要である。 土曜授業は校外外ともに定着したが、円滑な運営をさらに研究していく必要がある。
	「わかる授業」と「適切な評価」についての研究と研修を推進する。	各教科と連携して、授業改善と評価改善の研究を進める。 公開授業、研究授業のより良いあり方を検討するとともに、教科主任会議等を活用して、評価の改善を進める。	B B	B	
	第Ⅱ類文理系、第Ⅰ類文理科系の指導を充実させ、学力の伸張を図る。	「土曜授業」の円滑な運営を図り、量的にも質的にも「自ら学ぶ力」の向上を図る。 高大連携を積極的に進め、生徒の学びに対する興味・意欲・関心を高める。	B B	B	

生徒指導 特別活動	部活動、特別活動や体験学習を通じて、規範意識を確立させ、積極的に社会へ貢献する意欲・態度を養成する。	部活動加入率を男子60%、女子40%以上に引き上げ、26年度以降を見据えて、中学校や地域から認知される部活動へと活性化を図り、競技力の向上とともに広報していく。また、地域中学校との交流をさらに強化し、地域密着型の部活動としても活性化を図る。 地域や各関係機関主催の各種行事に生徒会やキャリア系クラスを中心に積極的に参加させる。 地域の各種ボランティア活動への参加を全校的な取り組みにする。	B	A	部活動においては、男女ともに4月当初の加入率は目標に達しておらず、特に女子の部活離れが顕著である。バレーボール部、バスケットボール部が「東稜カップ戦」を工夫を凝らして開催、運営して地域中学校との密接な交流に一役を担った。 各種地域行事やイベント企画などのボランティア活動においては、需要が高く、地域密着型の高校としての認知度を上げている。しかし、引率や会議への出席などが、担当部署だけではなく、人に付いてくるという課題が残る。 「身だしなみ指導」においては、女子のスカート丈遵守に重点を充てているが、全教職員の協力体制のもと、徐々にではあるが、成果を上げることができた。頭髮に関しては、ほぼ指導に従うという雰囲気醸成された。 生徒会活動をさらに充実・活性化させていく工夫が必要である。 タイミングと生徒・保護者との関わり方を間違えない生徒指導の徹底は今後も重要である。
	基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を育成する。	立門指導、校内・校外巡回指導や身だしなみ指導を2月からの学校体制での指導をさらに充実させて、「学校生活の手引き」に基づき、強化する。 駐輪・交通安全指導週間や遅刻指導を通じて、登下校時の自転車通学におけるマナーの向上や基本的な生活習慣の確立を図る。 学年部との連携のうえ、各学年生徒の特徴を把握し、学年アッセンブリー等を活用して、タイミングを逸さない指導（啓発・呼びかけ等）を強化する。	B	B	
	深い信頼関係に基づく人間関係を育成し、望ましい集団を構築させる。	生徒会活動を支援し、各種委員会を積極的に活動させる。 新入生歓迎会、文化祭、体育祭、生徒総会等の一層の内容の充実を図る。	B	B	
進路指導	生徒の3年間を見通した進路指導・進路学習を行う。	計画的に説明会、見学会、体験学習等を実施し、進路意識の向上を図る。 あらゆる機会を捉えて、生徒の人間力、将来の社会人としてのマナーの向上を図る。	B	B	進路意識向上のための様々な企画を実施し、学年部と連携して、将来を見据えた進路指導を継続している。 長期休業中などを利用して企業訪問、事業所訪問を実施し、適切で丁寧な就職指導を心がけた。 学習合宿（1年）は、夏休み当初に充実した内容で実施した。また、あらたに2年学年部との連携において、サマーセミナー、ウインターセミナーを実施し、学力の向上を図った。
	就職希望者への指導の充実。	就職対策講座の充実を図る。社会常識の徹底を図る。 企業訪問等を積極的に行う。	A	A	
	進学希望者への指導の充実。	実力テスト等の結果を分析し、教科・学年の学習指導に役立てる。 進路補習、学習合宿等を行い、学力の向上を図る。	A	A	

人権教育	あらゆる教育活動を通して、基本的 人権を尊重する精神の涵養を図る。	学校や地域の実態に即した人権教育推進計画を年度当初に策定し、全校で推進する。また日常的に計画の実施状況を点検、評価を行い、改善を図りながら実践に努める。	B	B	B	人権教育会議を計画的に実施することができておらず課題である。 ただし、各担当との連携は取れており、学年部・教務部の協力のもと一定の成果を見せることが出来た。 アンケートについては、機材不調もあり、実施できていない。 来年度の人権教育計画を早期に策定して、人権教育の一層の充実を図ることが課題である。
	自己と他者を尊重する豊かな感性を 育み、実践できる態度を育成する。	人権教育会議で人権学習や講演会の企画・立案を行い、関係分掌、教科、当該学年と連携して実施する。 人権を考えるためのアンケートを実施し、その分析を通してよりよい人権学習を構築する。人権学習後に感想文を書かせて、学習効果を検証しながら改善を図る。	B	B		
健康・安全 教育	交通安全や薬物に対する正しい知識と理解を深め、規範意識の向上と 道徳観を育成する。	1年生対象に「薬物乱用防止講演会」「非行防止講演会」を実施する。 山科署交通安全課、醍醐十校区自治連合会、PTAとの連携を密にし、登下校時の交通安全指導(特に自転車走行のルール遵守)に努める。 自転車安全走行講習会を実施する。	A	B	A	山科署生活安全課のスクールサポーターを講師に招き、10月初旬に薬物乱用防止講演会を非行防止の視点と併せて、1年生に実施した。 また、6月に自転車安全走行講習会を洛東自動車教習所において、府警本部、山科署との共催で実施した。 発達障害に対する理解や有効な支援など校内研修を開催することによって共通理解を図った。 管理職と協議を図りながら、福祉事務所やソーシャルワーカーとの連携を深め、生徒の生活環境の把握に努めた。 ネット社会での在り方や性意識調査などを通して、自己管理の能力の向上と教職員間の共通理解を図ることができた。 保健室来室生徒に対して、積極的に相談機能をはたし、生徒指導に役立るとともに、「教育支援通信」を発行し、教職員間の共通理解を深めた。
	支援を必要とする生徒に対する教職員の意識を高め、対象生徒へ具体的な支援を実施する。	緊急時の対応について共通理解を図り、支援体制を充実させる。 発達障害に対する理解を深め、授業の改善など、他の生徒にも役立つ支援をする。 福祉的な側面からも生徒の生活環境を理解し、有効な支援を考える。	A	A	A	
	生徒の健康や性に対する意識や自己管理能力を高める。	性に関する認識や、ネット社会での在り方などを講演を通して考えさせる。 保健だよりや掲示物を通して、心身の健康について自己管理能力を啓発する。 相談活動などを通して、個別の生徒に対して粘り強く指導する。	A	A	A	

学校図書館	生徒の読書意欲の向上を推進する図書館教育の充実を図る。	読書推進のため、図書館まつり、移動図書館等様々な取り組みを計画・実施する。 図書館検索システムの活用を推進し、生徒個々への読書相談を充実させる。 朝読書検討会議を中心にして、朝読書（おは読）の取り組みをさらに充実させる。 自主的・積極的な図書委員会活動を進める。	A	A	B	<p>広報活動として、読書推進につなげるべく、図書委員会活動の一環として「図書館まつり」などを計画し、「図書館だより」や「本と私」等を継続して発行できた。また、実務的にはコンピュータによる貸出・返却業務も軌道に乗り、生徒への読書相談も充実してきた。</p> <p>さらに、読書活動推進のためには、新たな仕掛けを視野に「おはよう読書」についても、手を入れ取組を工夫した。</p> <p>授業における図書館・視聴覚教室活用の機会もさらに充実させたい。</p> <p>芸術文化団体鑑賞の新しいかたちづくりに向け「検討会議」を開催し、他分掌からの意見集約ができた。</p>
	視聴覚教育の充実を図る。	視聴覚機器の充実と更新を進め、授業等での利用の調整や学習支援の充実を図る。	B	B		
	芸術・文化鑑賞教育の充実を図る。	優れた芸術・文化活動に触れる機会を促進するため、芸術文化団体鑑賞について実施内容・方法を検討する。	B	B		
学習環境 安全管理	学習環境や生活環境を整え、生徒の美化意識を向上させる。	日常の清掃活動に取む意識を高める。 清掃用具を拡充し、清掃しやすい環境を作る。 委員会活動を活動して花壇を充実させ、学校に安らぎの空間を作る。	B	A	A	<p>全体的には清掃活動に良く取り組んでいる。花壇の充実にも努め、安らぎの空間づくりに努めた。</p>
施設・設備 管理	安心・安全かつ教育効果向上に繋がる施設・設備環境の維持・管理に努める。	生徒・教職員の校内連携により破損・不具合箇所の早期発見・早期対応体制を確保する。 効率的な予算執行により教育環境の改善を更に押し進める。	A	B	B	<p>破損箇所については、発見者からの連絡を受け、生徒指導部との連携のもと、できる限り速やかに対応した。予算執行については、校内執行と本庁執行に分け、対応している。</p>
情報・文書 管理	適正な文書管理による情報管理体制を推進する。	文書の廃棄・保管など校内文書の適正な管理を通じ、より確実な学校情報の管理体制を確保する。	B	B	B	<p>校内文書の総合的な整理において、進行できていない部分もあったが、PCデータ管理等11月から、具体的改善に向けて取り組み成果を上げた。</p>
修（就）学 支援	修（就）学機会保障のための支援策を充実させる。	在学中や卒業後の経済的不安を軽減し、修（就）学機会の確保を押し進めるための支援策を広く紹介する。	B	B	B	<p>高等学校等修学資金が全生徒の15%、日本学生支援機構予約奨学金が3年生の60%強の利用がある。支援策の成果だと考える。</p>

家庭・地域 社会との連携	活発な広報活動や情報発信を行うとともに、26年度に向けて本校の特色ある様々な教育活動を企画し、充実させる。	東稜だより、学校案内パンフレット、ポスター等を発行し、生徒募集のアピールを強める。ホームページやお知らせメールを通じて、保護者や地域への情報発信を行うとともに、左記内容を、各分掌、教科等との連携を図りながら着実に進めていく。	A	A	新しい学校紹介パンフレット作成や学校説明会における生徒ボランティアスタッフ事前・事後指導など、意欲的に取り組んだ。 HPの更新やお知らせメールの活用などタイミングを逸することなく取り組み、学校行事等を発信した。 PTA活動には、会報誌などの関わり、誌面工夫など成果を残せたが、保護者間交流に対する働きかけがやや弱かった事が課題である。 地域行事へは副校長、生徒指導部との連携のもと、積極的に広報に関わり、写真等全ての記録が残せ、活用できた。
	PTA活動と連携を図る。	PTA活動に積極的に関わり、社会見学、文化講座、会報誌などの取り組みを実りあるものとする。また、保護者の悩みなど、保護者間の交流も図る。	B	B	
	地域の学校として、地域行事などへの参加を促す。	地域との交流を積極的、継続的に実践し、「人間力」を育むキャリア教育の一翼を担う。また、ボランティア活動など、地域への貢献・地域に寄与する学校作りを目指す。	A	A	
学 年	【第1学年】 自他の命を大切に、高校生としての自覚を持ち、自立と社会貢献のできるように、進路を見据えて目標を持った学校生活を送らせる。	挨拶の励行、言葉遣い、服装などの基本的な生活習慣を確立させる。 学習環境の整備、家庭学習習慣の確立を図り、基礎学力を向上させる。 自己認識を深めさせ、自己の興味・関心を発見させる。 学校行事を通じて、自主的で規律ある集団をつくり、愛校心を持たせる。	B	B	各集会や行事において団体行動が速やかに行えた。ベル着もおおむね定着した。家庭学習習慣の定着を今後も継続して図る必要がある。 進路学習、カタリ場などを通して、自己認識を深めた。また、文化祭においては、各クラス創意工夫とまとまりを見せ、全体でも取り組めた。研修旅行（スキー研修）も成功裏の内に終了して、クラスの団結や交流を深めることができた。
	【第2学年】 学校の中核の学年として規律の自覚と豊かな人間性を備えた高校生活を送らせる。また、進路指導の確立に向けて指導、援助する。	挨拶、言葉遣い、服装など基本的な生活習慣を確立させる。 授業中に集中し、家庭学習の習慣をつけることで、基礎的な学力を身に着けさせる。 進路学習などを通し、自分の将来を真剣に考え、具体的な進路目標を立てさせる。 学校行事を通して、自主的で規律ある集団をつくり、社会性を育てる。	B	B	
	【第3学年】 最終学年として自覚を持たせ、進路実現に向けて充実した高校生活を送らせる。	挨拶や言葉遣いなど、社会で必要なマナーを身につけさせる。 授業を大切に組みませ、学力の充実を目指す。 個人面談を密にして個に応じた進路指導を行い進路の実現を図る。 文化祭の演劇発表、自主活動の充実に努める。	B	B	

平成25年度 府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
国語科	授業規律を確立し、基礎学力の向上に努める。	課題や宿題を定期的に出し、点検する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを活用して学習課題を明確にしたり、共同学習をしたり、工夫しながら丁寧な指導を実地した。 ・漢字や語句、教材ごとの小テストを頻繁に行い、学力の定着を図った。 ・問題集などを週末課題として活用し、家庭学習を促すとともに学力の伸長を図った。 ・教科内の情報の共有化を促進したい。 ・進学指導、基礎学力指導の両面において、学年部と連携し計画性や組織性を高めることが重要である。
	発展的な応用力を育成する。	社会人講師を活用して、視野を広げる。 小テストを頻繁に行い、漢字力や語彙力をつける。 「学びの原点」を活用して基礎学力の向上を図る。	A C	
	社会人として生きるのに必要な力を育成する。	自己推薦文など文章による自己表現力をつける。 新聞を活用して、情報収集力と発信力をつける。	B B	
	教員間の連携を深め、共通理解に勤める。	教材試験の共通化を図る。 評価の仕方や基準を検討する。	C A B	
地歴公民科	個々の生徒に応じた指導のあり方を追求し、生徒の興味・関心・学習意欲を喚起させる教科指導・評価法をさらに工夫する。	学習ノートやプリント等の提出により生徒の知識定着度・理解度を日常的に確認する。 研究授業等を活用し、指導法の交流を推進する。	B A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲を高めるために、視聴覚教材やICTを活用した授業実践を行い、一定の指導法が確立できた。また、指導主事を交えた研究授業も実施しながら、授業改善を図る事ができた。 ・ノート点検等により、生徒の学習定着を確認しているが、その結果と考査の結果が連動していない点が課題となった。
	自ら積極的に学ぶ力をつけ、発展的な学習をさせる。	視聴覚教材を積極的に利用して、生徒自らの学ぶ姿勢を喚起するとともに、学習成果の定着を図る。 社会人講師等の活用、高大連携・ヒューマンリサーチシリーズを推進し、発展的学習の充実を図る。	A A	
	生徒の進路目標に応じた授業を行う。	クラスの特長や生徒の適性・進路に応じた教材や授業方法を工夫する。	B B	
数学科	「分かりやすい」「理解できる」授業を実践する。	小学校・中学校でのつまずきを確認し克服できる授業を入学当初に行う。 到達目標に達していない生徒に対しては適宜補充を行う。 校内研修として公開授業を実施し、教科指導力を高めよう。	B A A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習につまずいている生徒に対して、テスト前や長期休業中などに補充を行い、丁寧な指導を行うことができた。 ・模試や実力テストの過去問は配布のみとなりがちだが、授業中に解説を入れる等の工夫が必要である。 ・3年生の進学補習の内容について、さらに吟味していきたい。
	学年、類型毎にチームを組み、連携しながら授業を進める。	問題集の提出、平常テストや長期休業明けの課題テストなどをこまめに行う。 府立高校実力テスト、進研実力テストなどの演習時間を確保する。	A B	
	補習授業を活用する。	長期休業中に進学希望者対象の補習を実施する。 進路希望に沿った平常進学補習を行う。	A B	
	高大連携を積極的に進める。	関連する大学からの出前授業や、施設見学等を積極的に行う。	A A	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
理科	日々の授業において学習規律の向上に努め、実験・視聴覚教材などを用いて、より一層の興味付けを行いながら基礎学力の涵養に努める。	授業における指導状況の情報交換に努め、課題の共通理解を図ることで指導に役立てる。 実験、視聴に関するレポートについて、考察を充実させる。 小テスト等を実施し、学習内容の定着及び家庭学習の習慣づけに努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定例（週1回）の会議を持ち、生徒状況や直近の課題について理科全体で情報を共有し、対策や指導法に役立てることができた。 ・家庭学習の習慣化に努めたが、成果にまで繋がられなかったことが課題である。 ・進学補習、学習合宿だけでなく、夏期・冬期セミナーの充実にも努めた。 ・高大連携、施設見学を行い教科指導や進路指導に役立てることができた。 ・基礎科目の有効な授業点展開に課題が残った。
	充実した進路保障を推進するために、個々の希望に対応した適切な進路学習指導を実施する。	進学補習において、センター試験・二次試験対策など、個々の希望に応じ、充実した補習になるよう努める。	B	B	
	それぞれの分野に関する最新の情報提供を行い、教科の発展的指導・理系の進路指導の助力となるように努める。	関連する大学・企業・施設等の見学会や連携事業を実施し、教科指導、進路指導を充実させる。	B	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
英語科	英語を通して言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションをしようとする態度を育成する。	コミュニケーション英語Ⅰ・総学英語を中心にAETとのTT授業を定期的実施する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・TT授業に加えて、全学年を対象に図書部との共催で、AETの「お話を聞く会」が開催できた。英語の学習ばかりでなく、生き方について考える機会を持つことができた。 ・小テストや課題によって家庭学習習慣の確立を図ったが、その定着化ができていない生徒数は、まだまだ少ないと感じる。
	基本的な英語能力の定着を図る。	入学時に新入生の学力を把握し、基本的な内容の定着に努める。 小テストの実施やワークブックの活用により家庭学習習慣を確立させるように努める。	B	B	
	進路達成に向けた教科指導の充実を図る。	土曜授業を含め、的確な進路補習を実施する。 副教材を取り入れ、密度の濃い授業を行う。	A	B	
保健体育科	運動の意義について理解を深めると共に健康づくりや体力の向上の方法を理解させる。生涯にわたって健やかな身体を養うための身体能力と知識を定着させる。	健康のさまざまな側面について理解させ、健康作りのための運動の大切さや体力づくりを実践する。 2時間連続の授業を確保し、持久走授業を通して体力向上並びに体づくりを目指す。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期の持久走授業を通して持久力をともなう体力づくりトレーニングを組み込むことが課題である。 ・年度当初にしっかりとした集団行動ができているが、すべてのシーンにおいて訓練した「考え方」を発揮するまでには、至
	心と体を一体としてとらえ、授業を通して運動を実践する中で、心身の調和のとれた発達を促す。	年度初めに全学年、集団行動を取り入れ、規範意識の向上に役立てる。 生涯スポーツの観点に立ち生涯にわたって、スポーツとのかかわりを持てるよう実践する。	B	B	

	個人生活や社会生活における健康や安全に関する事柄を生涯を通じて捉え、自らの健康を管理し、改善できる資質能力、態度を養う。	ルールやマナーを守り安全に配慮することにより、体育の授業をより円滑にそして安全に参加し活動させるための心構えを身につけさせる。	B	B	っていない。 ・球技においては、お互いの体力や技能に応じて試合を進めることができた。 ・専攻種目実施をとおして、学年を超えてアドバイスし合い専門性を高めることができた。 ・キャリア系スポーツ生徒においては、アシックスミュージアム見学等を通して、偉大なアスリートの姿に触れ目標を高く持つことの大切さを学んだ。
	キャリア系ライフスポーツコースの講演（講義）や実習の内容をより一層充実させる。	体育理論、生涯スポーツ、体育特講の各授業の年間計画を活用し、学年を超えた縦のつながりを強化する。 外部の大学・専門学校等と調整し内容を充実させ、整理し実施する。専門種目の技術の向上を図る。	A	A	
芸術科	生徒自らが芸術に積極的に接する姿勢を育て、芸術についての表現と鑑賞の視野を広げることを目指す。	授業を大切にさせ、積極的に授業時間に取り組みせるように教材を工夫しながら、表現の質を高め、達成感が得られるような指導を進める。 鑑賞に関して、社会との関わりや生徒間の関わりを大切にする心情を育てながら、生徒が相互に鑑賞しあうことのできるコミュニケーション能力を育てる指導を目指す。	B	B B	・生徒の集団に応じて教材を工夫することで、授業に集中させる指導が推進された。一部の講座で3教科合同の鑑賞会を実施しているが、この取組をさらに他講座へ展開して、拡大させていきたい。
家庭科	生徒が自分の生活を幅広い視点から見つめ、主体的に生活の充実と向上を図る学びの方向性を示す。	主体的に生きる生活者として不可欠な技術・能力を身につけることを目標に実験・実習を取り入れる。 社会と自分の関わり、家庭生活と自分の関わりを実感し、生徒自身が主体的に考える力を育てる教材を工夫する。	B	B B	・生活技術と知識が結びつかない状況がさらに深刻化している現状がある。平易で身近な題材を工夫して繰り返していく必要性を感じている。
情報科	情報活用の実践力を高めるとともに科学的な理解を深め、情報社会に参画する態度を養う。	情報を適切に扱ったり、自ら情報活用能力を評価・改善するための基礎的な知識や考え方を学習させる。 情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任を考える態度を養う。	B	B B	・ワード、エクセル、パワーポイントで生徒に適した問題を選択することが課題として残り、工夫を要する。 ・情報モラルについて、タイミング良く十分な指導を展開するには至らなかった。